文化

沈黙に向き合う

沖縄戦 聞き取り47年 〈9〉

石原 昌家

伊是名島虐殺事件 ①

新聞寄稿に激しい脅迫

地域のタブーに踏み込む

私は『沖縄県史第10巻沖縄戦記録2』（1974年3月、県教育委員会）の発刊にかかわることによって、研究者としての第一歩を刻むことになった。

うわさ話

『県史2』の調査執筆を重ねているとき、東京の「現代史出版会」編集部の和多田進さんが、安仁屋政昭さん、大城将保さんに『沖縄の日本軍』というタイトルの出版企画を持ち込んできた。それが伊是名島虐殺事件の真相に迫る契機になった。私もその執筆陣に加わることになったことで、沖縄戦での地域のタブーに踏み込むことになったのであった。

なんの実績もなかった私は、うわさ話として伝わっていた伊是名島での虐殺事件と系数アブチラガマでの虐殺事件について、聞き取り調査をして執筆分担することになった。

そこで74年夏、伊是名島虐殺事件について、近所に住む伊平屋出身の琉大教授からうわさ話のあらましを聴いたうえで、伊是名・伊平屋島へ出かけ、聴き取り調査をした。

『県史』が世に出たとき、沖縄タイムス社から各執筆者に「『県史記録編2を執筆して』戦争体験の実証」というタイトルの原稿の依頼があった。私は75年4月7日、8日の両日、「伊是名島での証言／特務要員の実態明らかに」㊤と「住民虐殺の真相／島中震え上がらせた事件」㊦を連載した。

私にとって新聞への寄稿は初めてのできごとだった。沖縄県史としては、沖縄戦記録1と2が発刊されたが沖縄戦体験の真相に迫る聞き取りは、緒に就いたばかりだというのが私の執筆の趣旨だった。伊是名の聞き取り調査の結果に基づいて、『沖縄の日本軍』の執筆原稿の下書きになる内容を沖縄タイムスに掲載したのである。

ところが、その記事を読んだ沖縄戦当時の「駐在巡査」から、その内容にかかわることで2年ほど、激しい抗議と生命まで脅かされるほどのすさまじい脅迫を受けることになった。

元「駐在巡査」

元「駐在巡査」が、私を脅迫するきっかけとなった記事の冒頭部分は、以下のような内容だった。

沖縄戦は、砲煙弾雨にさらされた住民の悲惨な状態だけではなく、帝国日本臣民として軍国主義を植えつけられた住民の間でもいったいどんなことが発生していたかということに目を向けなければいけない、というのが私の問題意識だった。

72年に、地元記者が沖縄の島々における日本軍の住民虐殺事件のレポートを企画していた。伊是名島でも日本軍による米兵の虐殺や住民虐殺事件が発生していたというわさは口伝にもたらされていたので、当然、この事件のうわさを頼りに関係者の証言を求めてその全容を解明しようと試みたようだ。しかし、関係者の深い沈黙の前についにその事件は明るみに出なかった。

私が偶然、その数年後にこの事件の聞き取りを開始したとき、虐殺された遺族のひとりが「この事件が連載企画から外されたのでホッとした」と、メディアへの証言の提供を拒否した当時の心境を私に語った。

しかし、他の遺族のひとりは、連載記事を読みながら伊是名島での忌まわしい事件を思い出しつつ、そのリポートを待っていたが、その事件が取り上げられなかったので、非常に悔しい思いをしたという。

私は相反する遺族感情に出合った。

その事件は、陸軍中野学校出身者と国頭からクリ舟でたどり着いた日本軍の将兵のグループ、島の防衛隊らによって、漂着した米兵3人と非国民視・国賊視された奄美の3人の少年、家畜商が惨殺されたということだった。

私が聞き取りしてまとめた新聞記事のなかでは、当時の「駐在巡査」にかかわる内容が、当人の逆鱗に触れることになった。その内容はこうだ。「日本将兵たちは飛行機が墜落して漂流してきたアメリカ兵を殺害した。また駐在巡査も加わって、スパイの容疑で民間人（少年を含む）を虐殺した」と書き記した。

さらに、これらの事件発生以前のこととして次のようにも記した。「住民監視、しめつけには駐在巡査が全面に立った。彼は以前から『文句統制令』なるものをタテにとって、住民に厳しく対応して最も恐れられていた。米軍上陸以降は、夜な夜な他家の軒下や、床下にひそんで住民の動向をさぐっていた。彼のことを住民は軍事探偵と呼んでいた。村長権限まで奪うほどの行き過ぎた戦争協力者としてとかく評判が悪かった」。

「証言者を教えろ」

元「駐在巡査」の猛烈な抗議は、「連載の内容が事実とは異なる。いったい誰がそのような話をおまえにしたのだ、その証言者の名前を教えろ」という自宅への電話から始まった。

関西から沖縄へ嫁いできて4年目のワイフは、元駐在巡査が私の新聞掲載記事でどれほど困っているか、散々聞かされたようだった。

大学から帰宅した午後10時過ぎ、即刻折り返しの電話を掛けたが「お前は現場に居たかのように書いているが、現場に居たのか？」「お前に話をした人の名前を教えろ」というのが主たる内容だった。証言者の名前を教えるわけにはいかないので、深夜3時ごろまで押し問答が続いた。

（沖縄国際大学名誉教授）

（次回はあす掲載）

美しい海と白い砂浜に囲まれた伊是名島＝2017年11月